

- 白老町では、森林が持つ多面的機能についての理解促進と普及啓発を図ることと併せ、森林の中でアイヌ文化を体験するため、令和2年度よりウポイ横にある森林での遊歩道整備に町内活動団体への支援を行い着手した。
- 令和3年度には延長326mの遊歩道が整備されたほか、勾配のある個所には柳の木を活用した階段や土留め柵の設置や木製の樹名板を設置するなど、自然に配慮した整備を行っている。
- 令和4年度においては、樹名板へのQRコードの設置や町内小学校及び高校の遊歩道内での体験学習受入れ等のほか、町内外から多くの方が遊歩道を利用している。

## □ 事業内容

### 森林理解促進普及啓発事業

- ・町内活動団体への支援

【事業費】 312千円（全額譲与税）

- 【実績】
- ・遊歩道内の笹刈り、ごみ拾い
  - ・整備した階段、土留め柵の補修
  - ・アイヌ有用樹木の樹名板にQRコードを設置
  - ・町内小学校及び高校の体験学習受入れ
  - ・町内NPO法人と連携し、小学生を対象とした巣箱づくりと森林の大切さを学ぶ教室の開催  
※作成した巣箱のは遊歩道上の樹木に設置
  - ・町内NPO法人と連携し、小学生を対象とした木の枝のけん玉作成やアイヌ語カルタで森やアイヌ文化について学ぶ教室の開催



（遊歩道整備状況）



（巣箱づくり状況）



（体験学習受入状況）

## □ 工夫・留意した点

- ・樹木の説明とアイヌ文化との関わりが聞けるQRコードを設置し、個人の散策者でも学ぶことができる遊歩道となるようにした
- ・遊歩道の整備に使用する材はすべて自然素材とし、森林環境に配慮した整備を行った。

## □ 取組の効果

- ・小学生を対象としたイベント開催や小学校・高校の体験学習の受入れにより、早い段階での普及啓発が図られた。
- ・令和4年度におけるQRコード利用者が347名となり、遊歩道の利用状況がある程度把握できたほか、森林・アイヌ文化に興味を持っている状況が確認できた。

## ◇ 基礎データ

|               |          |
|---------------|----------|
| ①令和4年度譲与税     | 18,084千円 |
| ②私有林人工林面積（※1） | 2,320ha  |
| ③林野率（※1）      | 81.0%    |
| ④人口（※2）       | 16,212人  |
| ⑤林業就業者数（※2）   | 37人      |

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より